

令和2年度 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和2年8月21日(金)〈開会：13時10分、閉会：13時50分〉

2 場 所 県庁3階第1会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太
教育長 鍵本 芳明
教育委員 田野 美佐 松田 欣也 梶谷 俊介
上地 玲子 服部 俊也

4 協議事項に係る出席者の発言

【総合政策局長】

定刻となりましたので、これより令和2年度岡山県総合教育会議を開催いたします。
それでは、議事進行を議長である知事をお願いいたします。

【知事】

皆さま、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

まず、新型コロナウイルス感染症による教育への影響についてであります。各学校では学習の遅れを解消するため、夏季休業の短縮や行事の精選など、学習の遅れを補う可能な限りの措置を講じているところであります。

また、教育委員会において、感染症の第2波等による臨時休業の可能性に備え、オンラインによる授業等の実施に向けた準備を行いながら、引き続き児童生徒の健康、安全を第一に考え、教育活動を行っています。

さて、本日の会議のテーマは、現在、策定作業を進めております「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）」および「第3次岡山県教育振興基本計画（仮称）」について、意見交換を予定しております。

両計画については、先般その骨子案を公表し、さまざまな関係者から幅広くご意見をお伺いしているところであります。県政の最上位計画である生き生きプランについては、引き続き教育県岡山の復活を重点戦略に位置づけ、長期的な社会の変化に加え、近年の豪雨災害や感染症も踏まえながら内容を検討してまいりたいと存じます。

また、教育振興基本計画の策定についても、同様に教育委員会において準備を進めております。

来年度は、両計画の初年度であり、教育県岡山の復活に向けたいいスタートを切りたいと考えており、限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をお願いいたします。

それでは、両計画の概要等について説明をお願いします。

【教育政策課長】

教育政策課でございます。お手元の資料の生き生きプラン骨子案の5ページをお願いいたします。

重点戦略Ⅰの「教育県岡山の復活」におきまして、2つのプログラム名を変更しております。1つ目は、これまでの「学力向上プログラム」から1の「学ぶ力育成」への変更でございますが、これは学びに向かう意欲と自らの可能性に挑戦するための力を育成するためでございます。

2つ目は、これまでの「徳育推進」プログラムから2の「徳育・体育推進」への変更で、これは将来、社会の一員として活躍するために必要な若年期からの精神面、身体面の充実を図るためのものでございますが、学ぶ意欲などを原動力といたしまして、知・徳・体をバランスよくさらに引き上げていけるよう取り組んでまいりたいと考えております。

恐れ入ります、もう一方の教育振興基本計画骨子案の1ページをお願いいたします。

教育振興基本計画につきましては、「1 策定の趣旨」の2段落目にありますように、教育大綱を踏まえ、先ほど申し上げた第3次生き生きプランと整合を図りながら策定することとしており、「2 育みたい資質能力」や「3 基本目標」はこれまでと同様でございますが、ポイントといたしましては、中ほどの「育みたい資質能力」の3から6行目の子どもたちの学びの原動力である夢などを育む「夢育」を進め、夢や目標を土台として、学力や体力、規範意識や人間関係構築力を身につけさせることと考えております。

9ページをお願いいたします。

計画期間に取り組む施策の基本的方向といたしまして、「2 学びのチャレンジ精神の育成」の中の(1)夢や目標を育む教育やキャリア教育、職業教育の推進をはじめといたしまして、11ページの家庭・地域の教育力向上や16ページの生涯学習環境の整備等でも、夢や目標を育むという観点を持ちながら進めていきたいと考えております。

もう一点、ポイントと考えておりますのは、戻っていただきまして、9ページの下段でございますが、(2)子どもたちの学力が伸びる仕組みづくりの2行目でございますが、「新型コロナウイルス感染症の拡大により加速化が進んだICTの活用促進」でございます。県立学校のICT環境の整備につきましては、既に6月までの補正予算で措置いただき、現在、整備を進めているところでございますが、今後、ソフト面等の充実をさらに進めていく必要があると考えているところでございます。

説明は以上でございます。

【知事】

どうもありがとうございました。

では、皆さまには、こういった取り組みに力を入れていくべきかなど、ご意見をお聞かせいただければと思います。

【教育委員】

私は、「夢育」というか、目標を持つということがとても大事だと思っています。幼稚園

とか保育園の子どもたちは、七夕の短冊に「仮面ライダーになりたい」とか「〇〇になりたい」と書くんですけど、これが小学校とかだんだん大きくなるにつれて、現実が分かり夢が持てなくなる。何をしたらいいか分からない。そのままずっと、高校もどこに行こうかという形でそのまま行ってしまふ。だから、本当に自分の目標を持つために、目標と目的を持って、自分のなりたいものはどんどん変わってもいいと思うんです。ただ、諦めずに目標を持ち続けていく強い心を持たせることです。

あと、家庭環境がとても大事なので、保護者の力がすごく大きいと思います。保護者は、ある種、間違えるとモンスターペアレンツみたいになって、子どもを育てるところか、子どもを逆に過保護にしてしまふと、子どもの伸びを止めてしまふところがあるので、これからは就学前、小学校、中学校、高校と、子どもたちの切れ目のない支援と保護者の親育ということをもっと進めて、保護者にもっともっと参加していただく。昨日のお話で、ICTを使って懇談会などもされているとお聞きしたので、そういうこともどんどん取り入れながら、保護者にも学んでいただく。それと、地域の方にもどんどん入っていただいて、学校というものをみんなで支えていくという気持ちを持ってやっていったらと思うので、それには就学前の教育もとても大事だと思います。そこでつまずくと、小1でトラブルがあつたりするので、そういう切れ目のない支援ができればなと思つております。

また、教育とは別なんですけれども、生き生きプランの骨子案の中で、2ページの一番下から2行目のところに、「第2子以上を持ちやすい環境」という文言があるのですが、私は「第2子以上」というのがちょっと引っ掛かるので、「子どもを持ちやすい環境」とか、そういうふうにはできないかなと思つます。

【知事】

理由とすれば、第2子以上を持たない人へのプレッシャーになってしまうと、そういうことですか。

【教育委員】

やはりそうですね。子どもを持ちたくても持てないご夫婦もいらっしゃると思うので、敏感になられる方もおられるかなと思つます。ご検討いただければと。

【教育委員】

おそらく、今回大きいのは、やはり学びに向かう力というか、自ら社会との関わりを持って、どう自分を認識するかということが重要になってくると思つます。教育振興基本計画骨子案の11ページにも書いてありますけど、地域住民の参画による学校運営協議会や地域学校協働活動、こういった取組をどこまでやっていけるかがこれから大きなテーマになってくるのかなと思つます。形だけ作ったのでは意味がないので、本当に地域と学校が一緒に次の世代を育てることで地域も一緒に育てていく。特に高校は、地域における学校の役割が今まで以上に重要になってくると思つます。子どもたちと接してみても、最近の高校生の力というのはすごいなと思つことが結構ありますので、その辺を地域の大人、また

企業も関わりながら、相互に影響し合いながら、地域というものを使いながら両方が育ち合うというか、そういう関係づくりをどのようにしていくか。その中で、おそらく教師の教育力も向上してくると思います。また、企業の自社を見直す力も生まれてくれば良いなと思っています。

【教育委員】

委員に就任しまして8カ月が経ちました。知らないこと、初めてのことばかりなんですけれども、毎回勉強させていただいております。社会で活躍できる人材、あるいはどうしたら物心両面で幸せになれるのかという人材育成の目的という面でいえば、企業も学校も一緒だなということで、しっかりこの役を務めさせていただきたいと思っております。

この8カ月の間に、感染症や気候変動などの状況というのはさらに厳しく変化していると感じております。そういった中で、私もどういうことが必要なのかなと考え、この教育振興基本計画骨子案にも記載されていますけれども、大人も子どもも、自立的に行動できる力をいかに身につけていくかということが大事になっていると感じております。そういった面から言うと、この基本計画にある自立、共生、地域というキーワードは、まさしく今後も当然大事な項目であると感じております。

その中で、特に利他の心といいますか、こういったものをどうやったら一人一人が心掛けていけるのかということと、現実を直視して洞察的行動というのでしょうか、どうやったら自立的に行動できるのか、そういう力を育てていくということはとても大事だと思います。非認知能力という話が先ほどありましたけれども、これはまさしく人として正しい判断基準を身につけていくということでもありますし、そういった中で、今後また取り組まれる道德の教育というのは、とても大事なポイントになっていくのではないかと思います。

あと、今まではPDCAサイクルというふうに言われ、プランの中にもPDCAという言葉がありましたけれども、これからは先ほど言いましたように、現実を直視し、それに適応し、決断して行動していくという、サイクルを回していくということはとても大事だとは思っています。先ほどの感染症とか気候変動という激動の中では、もう少しスピード感とか適応力を持ったようなルーティーンといいますか、サイクルということも考えていかなければならないのではないかと感じております。

【教育委員】

今、新型コロナの影響で、ICTというか、インターネットを使っていろいろなところでオンライン授業になっているということがありました。その中で、そういったものを使って、グローバルな人材育成というところも大いに活用できるかなと思っています。昨日の高校の校長先生たちのお話の中でも、オーストラリアとつないで生徒さんと話をさせるというのがありましたが、留学をしようと思ったときに、やはり費用面であるとか、今回だったら、コロナの影響があって行けないとか、いろんな問題がありますけれども、ネットを介してやれば、ただでつなるとともに、瞬時につながって、子どもたちと海外の子どもたちが交流できる場が持てるわけですから、そういった意味では、今回のコロナのこ

とをばねにして、子どもたちのグローバル人材育成の推進にさらに役立てていけるのではないかと思っているところです。

その中で、1点、書き方の問題で少し気になったことがございます。生き生きプラン骨子案の6ページの3番、グローバル人材育成プログラムの1行目「日本人としてのアイデンティティを持ち」というところです。意味としては、日本の伝統や文化、郷土岡山の文化を大事にしながら異文化を理解しましょうということだろうと思うのですが、やはり日本国籍ではない方がこれを見ると、ちょっと除外されているような印象を持つのではないかなと心配になりましたものですから、できればそういうところに配慮した書き方をしていただけたらなと思いました。

【教育委員】

感染症のことばかりではなくて、機械化であったり、ロボット化であったり、AI、IT化という中で、今、本当に世の中が様変わりを求められているし、してきていると思います。逆に言えば、ロボットにしてもらえることはロボットにしてもらって、AIにしてもらえることはしてもらってという中で、人間らしさ、人間でないといけないことが、もっともっと求められるようになるのではないかと思っています。最終的に、社会人になって世の中に出ていったときに、人として求められることが十分できていけないだろうと。今回、「夢育」という形で柱に据えさせていただいている中で、本当に夢を持って取り組んでいく。将来のことであったり、自分自身のことであったりがもっと必要になる世の中になってきているのではないかと思っています。教育振興基本計画骨子案は、それを柱にしているので、どんどん取り組んでいけないといけないなと思っております。

【教育長】

先ほども、社会との関わりの中でというお話や、世の中の変化に対応してというお話がありましたけれども、ここでちょうど学習指導要領が変わります。10年おきに変わっていくということは、少なくとも10年先の社会を見据えながらということで今回改正されます。その中でも、「主体的・対話的で深い学び」というような言葉とか、あるいは「社会に開かれた教育課程」というような言葉がキーワードとして出てきています。これは、一つは想定されないいろんな出会う課題、先ほどのコロナもそうですけど、そういったものに対して、要はどうするのが最適かを見つけ出していく力、自分で課題解決していく力が、これから育てていけないといけない力だということで、そういうものを入れていけないといけません。

もう一つは、学校という組織だけでは対応できないような、つまり子どもたちはいろんな課題解決をしていくと、学校の教員だけでは収まりきらないところの中で、いろんな社会、企業の方々を含めて協力をいただきながら、子どもの課題解決を助けていく、そういう実践的な力を伸ばしていくことが必要になっていくだろうと思っています。

子どもの側からいくとそうですし、社会の側から言っても、いわゆる何点取れるかではなく、何点取れた力を持ってどう動いていける人材なのかということのほうに価値がある

ようになっていくので、そういう意味でも、今回これから作り込んでいく中では、社会とどう関わっていくか、コミュニティースクールなんかも含めて、合わせて検討していかないといけない段階に来ているなどということは強く思っているところであります。

【知事】

ありがとうございました。

生き生きプランについても、教育振興基本計画についても、大事なことがいっぱい入っているなど思いながら読ませていただきました。結局、当たり前ですけど、教育というのは何のためにやっているかということ、例えば、シマウマの子どもは生まれ落ちたら取りあえずシマウマとして生きていけるようになっているわけです。それに対して人というのは、生物の中では例外的なほど、生まれただけでは何にもできない。育てなきゃいけませんし、かなりの時間とエネルギーをかけて徹底的に教え込んで、初めて社会の一員としてやっていけるわけですし、いくらでも変えられるからこそ、ここまですごい社会を作ってきました。

今、ここができてないなということについては、ぜひ取り入れてやっていきたいなと思っていますし、よく言われることではあるんですけど、どうしても我々は学力というのが気になってくる。学力が大事なのは間違いないんですけど、意外と学力以外のところが社会に出てから効いてくることもありまして、最近、非認知能力と分かりやすい言葉がつくようになりました。実際、いかにその非認知能力をつけた上で社会に出してあげるのか。これまでは、どちらかというと家庭でできていた、もしくは社会に放り込まれてやむなくそれを身につけるしかなかったようなことが、随分社会が優しくなって、逆に今度は放っておかれるようになったということなのかなと思っています。ぜひ、それぞれの子どもたちがちゃんと能力、ポテンシャルを生かして、有意義な人生を送れるように、社会としても、新たなメンバーとして受け入れて、彼が来てくれてよかった、彼女がいてくれるおかげで本当に助かるという人をぜひ育てられるようなという観点で、常に見ていきたいなと思っています。

皆さま方のご協力のおかげで、もう一巡いけそうです。言い残したことも含めて、もしくはほかの委員の方のお話を聞いて、確かにこういうことがあるなというあたり、何でも構いませんので。

【教育委員】

私がもう一つ思うのは、子ども自身が小さい頃から、自分で考えるくせをつけさせてあげることがすごく大事だと思っています。小学校でも、朝、母が起きないからご飯を食べてこないという子がいるんですけど、そしたら自分で食パンを焼いて食べてくるとか、そういう生きるすべも、子どもたちに小さいころから身につけさせてあげたいなと思っています。食育というのはとても大事なことで、やっぱり食べることが一番エネルギーの原点なので、そこを怠ってはいけないと思います。食べるためには物を買う、それにはお金がかかる、そのためには働かないといけないというお金の原理とか。そういうことも、本当

は家庭で教えないといけないんでしょうけど、実際、今の家庭では、子どもにはお金の苦労はさせたくない、事情を知らないまま大人になって、結局借金地獄になったという話も聞くので、そういうきちとしたことを教えてあげることも大事なかなと思います。この前も、ポテサラ論争みたいなのがありましたけれども、本当にそれが母としてどうなのか、家庭としてどうなのか。物を見る尺度というか、それを子どもたちに身につけさせてあげたい。「どこの高校に行こうか」とか「何をしようか」と親に聞く子どもが結構多いと聞くんですけど、そうじゃなくて、逆に「自分はこうしたい」と言えるような子どもをこれから育てていく、力をつけていくための施策とかもいろいろしていきたいなと思います。

【知事】

ありがとうございます。さっきの自立の話につながりますね。

【教育委員】

生き活きプラン骨子案の「教育県岡山の復活」と、次の「地域を支える産業の振興」は別建てになっていますけど、おそらくこれは非常に密接に関係してくる部分です。企業側、産業側からも、教育側にどう関わるかという視点が求められるし、教育側からも、地域の産業などにどう関わっていくのか。この双方向でのやりとりをどう組み立てていくか。それから、生き活きプラン骨子案にも「さまざまな主体との連携・協働」と1ページのところに書いてありますが、これを本当に実のあるものにしていく必要があります、逆に言うと、教育現場、学校でもどう実現していくかだと思います。おそらくこういった県の政策も、どうしても原案を作るのが行政部局中心で、作る段階でいろんな主体と一緒にやって作り込んでいくことが、意見は聞いているものの、まだまだ十分にはできていない。もう少しこういった政策を本当に実現していこうと思うと、おそらく行政以外のところがどれだけ本気になってやってくれるかということになってきます。やはり、作り込む段階でどう巻き込んでいくかが、おそらく今後もっと必要になってくるのではないかと思いますし、地域社会に開かれた教育課程の実現をやろうとするときにも、そこが非常に重要になるので、多様な主体と一緒に物事を決めて一緒にやっていくということを本当にやれるようなことを、なかなか難しいんですけど、ぜひ学校というところで体験をしてけると、非常にいろんなところに広がっていくと思います。ぜひ、そんなところも落とし込んでいければいいのではないかなと思います。

【知事】

縦割りになりがちな岡山県庁を、総合的にまとめるために総合政策局を作りまして、今、総合政策局長が同席をして聞いているところでございます。本当におっしゃる通り、しっかり頑張っていきたいと思います。

【教育委員】

今、話があった学校と地域の連携はとても大事だと思います。もっともっと大人や学校

外の、例えば企業が、教育というものに興味を持つといいますか、目を向けていくことが必要だと思います。企業としても、もっともっと学校を活用したり、利用したりするということが可能ではないかと考えています。

例えば、私は、法人会というところに所属しております、年に数回、小学校に行って税金の話をしています。話しながら勉強させてもらっている感じではあるんですけども、そこで偉そうに、税は社会の思いやりだよとか、3大義務に触れながら、教育、勤労、そして皆さんがよき納税者になるためにここで勉強しているんですよ、なんていうことをお話しさせていただいています。生き生きプラン骨子案の中にも、インターンシップや企業訪問等の経験ということが記載されていますけれども、受け入れる側も、会社説明会の延長線上ではなくて、もう少し突っ込んだところでこういったプログラムを企業としてもしっかり実施、利用していきたいと考えております。

【知事】

どうもありがとうございます。

本当にいろんな社会貢献をしていただきまして、ありがとうございます。

【教育委員】

先ほどのお話の延長になりますが、スマートフォンやICTは、上手く活用すると、瞬時にいろんな国ともつながっていけますし、オンライン授業が始まったら、まさにそれが役に立つんですけども、その一方で、長時間利用による弊害が心配です。オンラインでやっている片隅でゲームもできちゃうわけですよ。画面を2画面用意したら。そういう誘惑に負けやすい子どもたちもたくさんいるのではないかなと思っていて、今回、休校中に親御さんが一番心配したのは、だらしない生活やゲームばかりやっているということですから、今後、新型コロナウイルスの影響でまた休校になり、オンライン授業になったとしても、長時間利用が、勉強に使うのではなく、別のことに使ってしまうのではないかなと思うんです。

そのため、生き生きプラン骨子案の5ページにも、スマートフォン等の利用に関して家庭のルールがあるかどうかの割合を挙げていますが、そのやり方、どうやったら子どもがオンラインを、ゲームばかりではなく正しく学習に持っていけるか、ご家庭でもどういうふうに指導したらいいのかを伝えていただきたいし、そうなってしまう子どもにはどういう指導が必要なのかというのは、少し研究が要るのではないかと考えています。要は、刺激に流されやすい子どもですね。ゲームが使えると思ったらつい使っちゃう子どもたちを、いかにコントロールしていくかです。非認知能力も、そういう意味ではゲームに対しても多少は役に立つのかもしれないんですけども、程度の問題だと思います。その自己コントロール能力をどういうふうにしたら伸ばしていけるのかを、今後のオンライン活用に備えてやっていく必要があるのではないかなと考えています。

【知事】

香川県も条例をつくるとか、もうしていますよね。どうやるのがいいのか、本当にいろんなアイデアを検討したらと思います。

【教育委員】

非認知能力のお話もあるんですけど、学力というと、ついつい点数のことを言われる方がいらっしやると思います。そこで身につけた学力、知識というものをいかに活用して、掛け合わせて、想像力を発揮して培っていくということが大事だと思うんです。7ページの企業の「稼ぐ力」強化プログラムに関しては、いわゆる企業側でいくと、稼ぐ力のある子どもたち、若い人たちに入っていただきたいということでもあります。ところが、これが今なかなか欠落している部分があるんですよね。ここは本当に密接に関係があると思っていますし、これからの教育というのは、そのことを考えて取り組んでいかないといけないのではないかと考えております。

あとICT教育は、どんどん進めていかないといけないですし、活用もしていかないといけないし、ICTは時間と空間の枠を越えてしまう。例えば、今までだったらクラス分けなどがありますが、ICTというのは学校という壁すら取っ払って、その空間すら取っ払うことによって、また余力が生まれてくるという可能性が大いにあると思います。1つの教育科目であったとしても、クラスを越えてセグメントされた中で、また一つの教育体系を構築していくことができたり、質を高めていくことができたりというようなことができるようになる。まだまだ対応していかないといけないこともたくさんあると思うので、これから真剣に教育委員会の中でも議論していかないといけないなと考えております。

【教育委員】

それに関して言うと、今までは学年というイメージで教育を考えていたのが、おそらくその学年という概念で教育を考える限界が、ICTが入ってくると出てくるんじゃないかなと思います。もっと個別最適化ということも言われていますし。今までのような学年だと、習熟して、理解していようがしていまいが次の学年という話だし、次へ行きたい人もまだここだよということになっています。

【知事】

昔は飛び級とかありましたよね。

【教育委員】

おそらくICT教育がどんどん入り、個別最適化されていくと、学年というイメージを根本から変えなきゃいけない時代が、そう遠くない未来に来る。

【知事】

これまでも無理していましたからね。

【教育委員】

そういうことを踏まえて、教育のあり方をどうするのかというようなことを、今後、考えていく必要があると感じました。

【教育長】

先ほど、知事からも非認知能力、各委員さん方もお話しになっていたんですけど、今回、これまでの知・徳・体ということはもちろんベースにやっていきながらも、それを支える非認知能力をどう合わせて作っていくのかということを考えていく必要があります。次の教育振興基本計画なり、生き生きプランにも関わる部分だと思うんですけど、これからやっていけないといけないと思っているのは、子どもたちに考えるくせをつけさせるということです。結局、子どもたちが考えようとする、先回りして大人あるいは教師が取り上げてしまっている部分がかかなりあると思います。限られた時間の中でやらないといけないということはあるんですけど、子どもたち自身が考える場を、学校の中もそうですし、さっきお話しした社会教育も含めて、学校外でも作っていくということが必要なんだろうと思います。

あとは大人あるいは教師が関わっていく中で、子どもたちの動きの中で見取ってやるというか、子どもたちの中の価値ある動き、頑張っているとか、粘り強く頑張っているとか、友達と上手に関われたとか、そういったところを見て、それを子どもたちにちゃんと返してやらないと、非認知能力というのは放っておいて身につくものではないと思うので、そういったようなところを、今度のところでしっかりやっていこうと思います。場を作るといふことと、もっと言うと、教師や親が待ってやらなきゃいけないんですけど、「早く、早く」言わずに待ってやった中で、それを取って返してやっていくということを合わせてやっていかないと、なかなか非認知能力というのは身につかないですし、社会性というところが、「稼ぐ力」にもつながっていく部分もあり、そういったところも、これまでの知・徳・体と合わせて、先ほど夢につながる、夢を育む教育、夢につながっていく力という面で、そののところをしっかりとやっていきたいなと思っております。

【知事】

ありがとうございました。今日も、非常にいいご意見をいただいて、大変心強く思ったところでございます。

夢と目標というのが、今回の計画にはこれまで以上に色濃く出ているわけですけど、学校においては、何とかその中で良い成績を取って、なかなか入りづらい学校とか会社に入るかということが、目先、目先でいくとどうしても重視されてきて、ちょっとそれが行き過ぎて、個人としても社会としてもオーバーシュートしてしまっているのかなと思います。そもそも何のためにみんな頑張っているのか、何のために学校があるのか、教育にこれだけのエネルギーを入れているのか、ということ常々気にしておくことも大事で、学力と学力以外のもののバランスも常に気にしておかないといけません。これから未来がたくさんある子どもたちのエネルギーの元、頑張る元、希望の元は何かというと、今ここにある

夢だったり目標だったりというのは、ほぼ間違いないところです。その重要性は、たぶん我々はこれまで、本来の重要性ほどきちんと認識していませんでした。

子どもの頃の夢が切り替わっていくにしても、その切り替わり方で、そのときそのときの前向きなエネルギーの元になってくれれば、それはそれでいいわけです。小手先でうまくやっているというのも悪くはないんですけど、岡山で育つ子どもたちというのは、非常ににこにこしていて頑張り屋さんで、人に好かれるいい子たちが多いなど、そういう地域にしたいと思っているところがございます。これからもご指導よろしくお願ひいたします。

全体を通して、この内容が全然違うというようなご意見ではなく、大体方向はこうじゃないですかということと、いくつか違う視点から見ると、表現を変えたほうがいいのではないかというご指摘もいただいたところで、どういうふうにするのか、また考えていただければと思います。

では、時間となりましたので、総合教育会議をこれで終了させていただきます。本日はありがとうございました。